

生涯発達の見点で、自分自身の一生を捉えさせるー絵本の活用ー

学習指導案

大阪府立茨木高等学校 指導教諭

＜学習単元＞ 「家庭基礎」 豊かな生涯へ 保育と高齢福祉
ー よりよく生きる ー

- 1 日 時 平成23年6月14日（火） 14:10～15:15
- 2 学 年 組 1年1組 40名
- 3 場 所 家庭科総合実習室
- 4 単 元 豊かな生涯へ 保育と高齢福祉
- 5 指導事項 よりよく生きる
- 6 指導計画 別紙指導計画参照。本時は保育と高齢福祉の間をつなぐ1時間となる。
- 7 単元設定の位置付け及び本時の目標

- ① 前期に『共に生きる』『豊かな生涯へ』と人の一生を学ぶが、人生の終末、つまり『死』に触れることなく、『生』を語ることが難しい。しかし、昨今、子どもたちが日々の暮らしの中で『死』に直面することは少なく、小学生の間では『死』の意味すらよくわかっていないとの現状報告がある。この機会に身近な『絵本』を通して『死』や『死生観』を味わわせることで、『いかに生きるか』『よりよく生きる』を考えることにつなげたい。
- ② 『絵本』というものが、子どもだけでなく高校生や大人にとっても、人生を考える教育媒体になることを知らせる。さらに、子どもの本には下限があっても上限はないことを理解させる。

8 本時の評価規準

- ・人の一生を生涯発達の見点でとらえ、絵本を通して、「家族の在り方」や「生と死」について考えを深めようとしている。
(関心・意欲・態度)
- ・「生き方・人生の歩き方」について考え、人の一生の営みを自分の問題として理解する。
(知識・理解)

9 準備

- ① 絵本 「ずーっと ずっとだいすきだよ」 ハンス・ウィルヘルム 絵と文 久山太市訳 評論社
「わすれられないおくりもの」 スーザン・バーレイ 絵と文 小川仁央訳 評論社
「おばあちゃんがいるといいのにな」 松田素子作 石倉欣二絵 ポプラ社

② ワークシート

③ 参考文献・資料各種

10 授業の展開（65分）

区分	指導内容	学習内容 (学習活動)	時間	指導上の留意点	備考
導入	・本時の目標を明確にする	・人生すごろくをつくる中で「ゴール」を何にするか考える。 ・「何歳まで生きたいか」考える。 ・人生の終焉・『死』について考える。	10	・社会の中での成功や安らかな死をゴールにするだろうか、それとも…。 ・皆の『死』の捉え方を共有させる。 ・難しいテーマを身近に引き寄せるためにはどのような手法をとるといいのか、例を挙げながら『絵本』へ導く。 ・安楽死・尊厳死のことも触れておく。	■映画紹介 (海を飛ぶ夢、私を離さないで etc.)
展開	・乳幼児期に出会った絵本について考えさせる	・昔自分の好きだった絵本を思い出す。 ・絵本の役割を1つ書き、班で意見交換。	10	・前時に乳幼児の生活について学習したが、乳幼児にとって絵本はどのような役割をしているか考えさせる。 ・日本の昔話やグリム童話、イソップなどの持つ共通性に気付かせる。 ・体験できない『死』をテーマにした絵本を紹介する。	■モラリティ（倫理観）
	・絵本の中の「死生観」に出会わせる				
	・絵本を読み聞かせる	・絵本を読む。 ・どの絵本が共感できたかワークシートに書く。	20 10	・読んでくれる生徒がいれば、読ませる。 ・絵本が見やすいように前へ集める。	
	絵本を通して「家族の在り方」や「生と死」について考えようとしている。(関心・意欲・態度)				【観察・ワークシート】
まとめ	・実生活と照らし合わせる ・絵本を読み解く	・近親者の死に向き合うということを考える。 ・『死』を考えることは何に通じるのか考える。 ・「アナグマ」の『生』と『死』を考える。	15	・近親者の死に向き合ったことがあるか問う。 ・『死』の受け入れも社会化された現代に気付かせる。 ・絵本の解説をし、どの絵本も『死を受け入れる』物語であることを示す。 ・小児科医細谷亮太の紹介（忘れられない贈り物を使って死を伝える内容）をする。	■茨木市の葬儀（おくりびと）
	「生き方・人生の歩き方」について考え、人の一生の営みを自分の問題として理解している。(知識・理解)				【ワークシート】 ■「いい顔」の高齢者との出会い
		・ワークシートに本日の「気づき」を書く。		・『よりよく生きる』とは？につなげる。 ・「高齢社会を生きる」と題した講義があることを知らせる。	

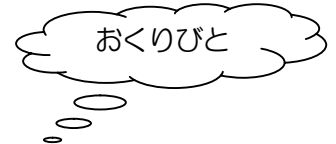
よりよく生きる

1年 組 番：氏名

- 生まれる→死ぬ（人生の終焉を迎える）
人生のゴールは？
人生すごろくで『ゴール』は何？
- 何歳くらいまで生きたいですか？

死と向き合う

- 身近な体験・経験として



- 絵本の中ではどのように描かれているだろう
『ずーっとずっとだいすきだよ』 ハンス・ウィルヘルム、評論社 (1988/12)

『おばあちゃんがいるといいのにな』 松田 素子、石倉 欣二、ポプラ社 (1994/11)

『わすれられないおくりもの』 スーザン・バーレイ、評論社 (1986/10)

- どの絵本が一番好き？（理由と共に）

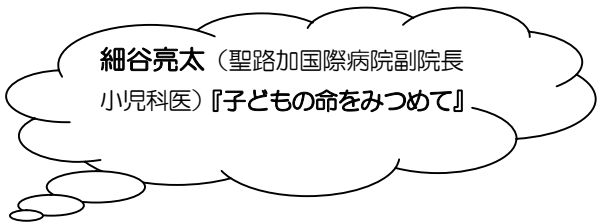
『死』を考えることは（ ）を考えることと同じ

絵本について考えてみる

- 子どものころ大好きだった絵本は？
- いつ、誰に読んでもらった？
- 子どもにとって絵本の役割は何だろう？
- 今、読む絵本とは…

気づき

- 今日の授業の中で気付いたこと、考えたことは何でしたか？
- もっと知りたいと思ったことは何だったでしょう？



細谷亮太（聖路加国際病院副院長
小児科医）『子どもの命をみつめて』